

芭蕉蔵

優秀作品発表 第11回

兼題「母の日」の部

特選第一席 母の日やいつも通りの厨房 横浜市 吉田みち

特選第二席 母の日や系図のここが母の位置 文京区 杉山保廣

特選第三席 母の日やふるさととの山くつきりと さいたま市 小山光彦

【講評】

今回の兼題「母の日」は、類想に陥りやすい季語の一つです。投句作品を見ても

- 1、母の日を解説した作品
- 2、母の日の出来事を報告した作品
- 3、個人的な母の思い出を述べた作品

という三つの類型に入ってしまったという作品がほとんどでした。

俳句は読者の心へ何らかの刺激を与える必要があります。「母の日」という兼題からいかに読者の想像を引き出すか、いかに飛躍するかを考えたいものです。

特選に選んだ俳句には、いずれも作者の独創的な把握があり、それが読者の想像力を喚起しています。

第一席は、母の日とは言いながら、特別なこともなく過ぎていく日常の一コマを具体的に描きました。母の日は、多くの人にとって案外こんなものなのかも知

自由題の部

特選第一席

青嵐押しつけて来るダンブカー

特選第二席

正座して飛ばず騒がずかぶと虫

特選第三席

濃淡の重なりあへる若葉かな

【講評】

自由題の第一席は、実に爽快な作品です。一読、母音アのフレインが明るい印象を与えます。青葉を吹き渡る風。それを押しつけて疾走してくるダンブカー。それは初夏という季節の力そのもののようには思えてきます。句意としらべをバランスよく調和させる工夫も効いています。

第二席は、かぶと虫の泰然とした風姿を擬人法を用いつつ描写しています。動かないさまを「正座して」と見立てた点に

来ません。人からねぎらわれることなく、いつも通りに過ごせることはそれだけで幸せなことなのかも知れません。そんなことを考えつつ、読者それぞれの立場から静かに味読することのできる作品です。

第二席は、母の日に家系図を広げ、改めて母の出自とそこから始まる自分たちの位置を確認し合っているのでしょうか。母に対する感謝の気持ちを直接的に表現していないため、読者はかえってその気持ちを汲み取ることになります。

第三席は、俳句の切れと取り合わせの効果をうまく活用した作品です。ふるさととの山のことしか言っていないですが、季語「母の日」が効果的に働き、その初夏の風光の中で、母を思いやる作者の優しさが心地よく伝わる作品となっています。

台東区 目崎純子

世田谷区 松鹿文哉

練馬区 伊藤たか子

作者のオリジナリテイがあります。そして、「飛ばず騒がず」という表現で、昆虫の王・かぶと虫のかぶと虫らしさを描き出しました。

第三席は絵画的な作品です。「濃淡の重なりあへる」という表現が、印象派的な俳句へと導いています。作者の対象を凝視する目が、素直かつ的確な言葉を紡ぎ出したのでしょう。

【入選】

母の日や故郷の風陽の光 練馬区 伊藤たか子
 母の日や厨に聞きし九九の声 文京区 小池仁郎
 母の日や調子外れてゐるピアノ 調布市 小島卓也
 母の日や母の言葉が道しるべ 仙台市 中澤園子
 母の日や行李の底に鯨尺 伊勢原市 中本郷顔
 母の日や幸せなんてこんなもの 千代田区 野尻正雄
 母の日や花屋の列のながながと 世田谷区 松鹿文哉
 母の日やフォトフレームを拭いてみる 調布市 水谷友二
 母の日やスープの味は越えられず 台東区 目崎純子
 母の日の母へと国際電話かな 吉川市 山口方子

【添削例】

母の日やギフト包みの固きこと (原句)
 母の日の結び目固きギフトかな (添削句)
 母の日に母の背丈を追ひ越せり
 母の日や母の背丈を追ひ越して
 貨物車を母子で数ふ梅雨の明
 貨物車を数ふる親子梅雨明けぬ
 母の日の今朝も洗濯日和かな
 母の日のかくも洗濯日和かな

いなびかり影絵の村を浮ばせり
 いなびかり村は影絵となりにけり
 緑さす写真の母の若かりき
 緑さす写真の母の若きこと
 給水車人等とみて新樹光
 給水車かこむ人々新樹光
 地震の地へ桜前線まつしぐら
 地震跡へ桜前線まつしぐら

【入選】

湖に投網の影や夏霞 町田市 牛島興成
 街道を原付疾走風薫る 富士見市 大川勇二郎
 町内ですます買ひ物濃紫陽花 板橋区 加藤修
 初鏡愛されてゐるかたえくほ 仙台市 中澤園子
 初夏や蛸踊りつつ乾きゆく 伊勢原市 中本郷顔
 曲り角染めてせり出す若葉かな 伊勢原市 中本萬里
 絵の具溶く港の丘の若葉風 横浜市 永易幸茂
 陽炎やマリリー・アントワネット展 千代田区 野尻正雄
 額縁に泳ぐ魚拓や仏生会 千葉市 馬場由紀子
 鈴蘭をバケツに植えて路地暮らし 吉川市 山口方子

応募方法

- 1 応募用紙を明治大学ホームページからダウンロードするか、あるいはA4用紙に次のことを記載の上、郵送・ファックス又はメールで応募してください。
http://www.meiji.ac.jp/koho/desukara/info_book/zasshi_bashoukura.html
- 2 未発表作品に限ります。
- 3 自由題と兼題のそれぞれ2句まで応募できます。応募は無料です。
- 4 自由題と兼題、どちらかを○で囲む、あるいは記してください。(1枚の用紙に自由題と題詠の併記は不可)
- 5 住所・氏名・電話番号・作品等、必要事項を記入してください。
 ※ペンネーム(併号)の場合も、必ず本名を併記してください。
- 6 文字は楷書で記してください。
- 7 応募作品は返却しません。
- 8 特選に選ばれた方には特製図書カードを贈呈いたします。

応募先 明治大学経営企画部広報課 芭蕉蔵係
 〒101-8301
 東京都千代田区神田駿河台1-1
 TEL03-3296-4083 FAX03-3296-4087
 MAIL koho@mics.meiji.ac.jp

次号兼題 「虫」(「虫」という字が入れば使い方は自由とします)
 8月17日必着



西山春文

「狩」同人、俳人協会幹事
 日本文藝家協会会員
 本学商学部教授